

環境経営レポート

(対象期間：2020年11月1日～2021年10月31日)

発行日 2022年 3月 14日

改訂日 2022年 4月 28日



当社は2020年11月1日に環境マネジメントシステムを立ち上げました。このシステムでは当社の事業年度に合わせ、11月1日から10月31日までをひとつの区切りとしています。

この「環境経営レポート」は、環境マネジメントシステムを立ち上げてからの1年間を対象にまとめました。

長野県松本市和田5511-11

株式会社 



有機農業と、未来へ

株式会社デリカは有機農業を応援する作業機を中心に開発し、市場に提供することを通じて、食・農産業の発展、有機農業の応援、品質向上、環境配慮、また農業の効率化、省力化を推進しSDGsに貢献します。



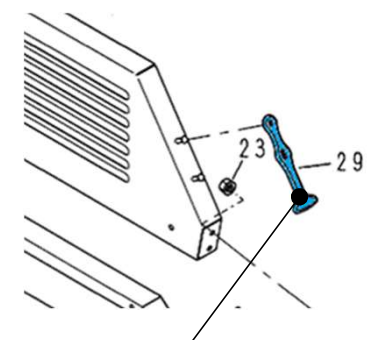
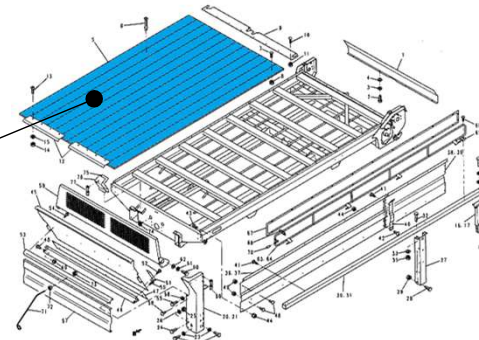
マニアスプレッダなど有機農業支援機器の提供により、生産性の向上，化学肥料の使用機会の削減による生態系へのリスク軽減，有機肥料の使用機会を増加することで土壌の質の改善に寄与します。

製品の一部材質に再生素材を取り入れ、資源利用効率の向上，廃棄物の削減に貢献します。



(自走マニアスプレッダDAM-354)

PP再生材

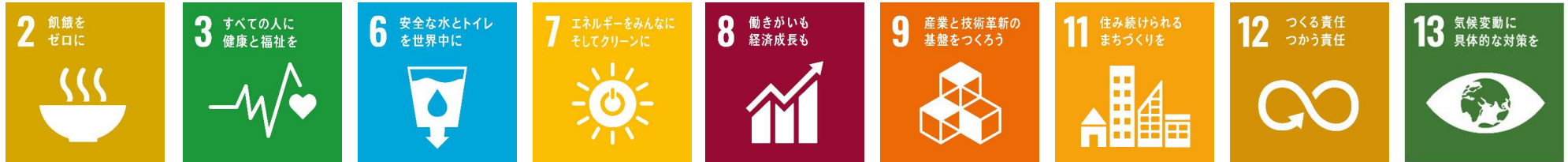


再生ゴム

(マニアスプレッダDXシリーズなど)

有機農業と、未来へ

株式会社デリカは国の進める「みどりの食糧システム戦略」に沿った活動を推進しSDGsに貢献します
 (参照 [みどりの食料システム戦略トップページ：農林水産省 \(maff.go.jp\)](https://maff.go.jp))



・農地の炭素貯留-バイオ炭の農地施用の支援機器の研究開発
 バイオ炭と呼ばれる有機物を原料とした固形炭化物を農地施用することで、炭素貯留効果が得られ温室効果ガスの削減交換があるとされています。また、同時に土壌の透水性・保水性・通気性改善など土壌改良効果があるとされています。デリカではバイオ炭を効果的に散布する散布機の研究開発を推進しています。

・混合堆肥複合肥料の散布機の研究開発
 混合堆肥複合肥料は地域慣行の化学肥料の代替とともに土づくりにも補完的な役割を果たすとされています。デリカでは混合堆肥複合肥料をより効率的に散布できる散布機の研究開発を行っています。

・バイオ液肥散布機DAV-2500
 家畜排せつ物、食品廃棄物等を発酵処理する際の副産物である消化液をバイオ液肥として有効利用するための散布機を開発、販売しています



(自走液肥散布機DAV-2500)

TOPIX



2021年1月 第二工場稼働開始



スマート工場として、人感センサー照明の設置、最新設備とIoTを導入し、自動化・省エネ・高効率化を図った環境配慮型の工場です。

毎月15日は外構清掃

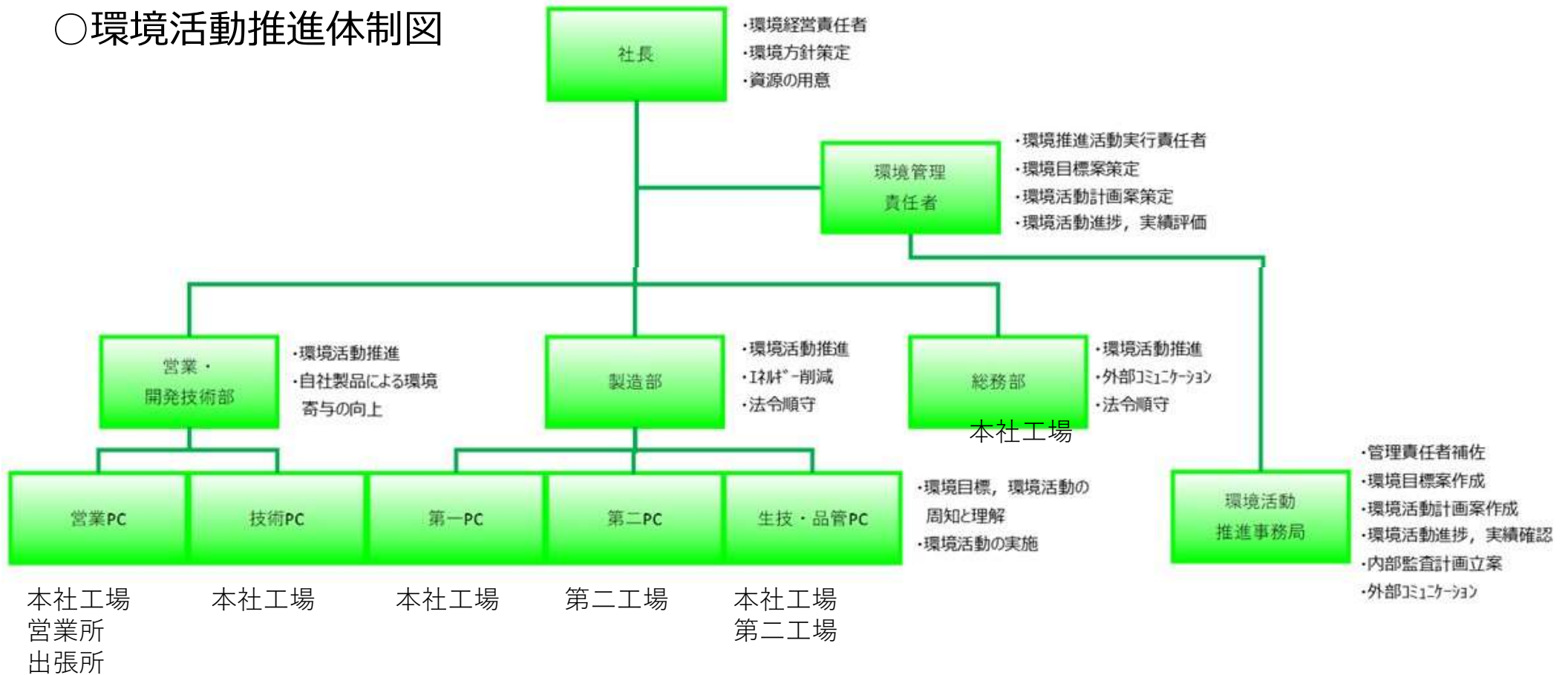


毎月15日は外構清掃日、全員参加で会社周辺の環境美化に取り組んでいます。
夏場の草刈り、秋の落ち葉拾いは特に大変ですが、ご来社頂く方々や地域環境を守るため部署ごとにエリアを決めて通年で実施しています。

1. 事業活動の概要と環境活動実施体制

- 事業所名 : 株式会社デリカ
- 所在地 : 390-1242長野県松本市和田5511-11
- 事業活動の内容
 - ・農業用作業機械（インプル）の製造, 販売
 - ・トラクタ部品の製造
 - ・大型洗車機部品の製造
- 事業規模
 - ・資本金 : 95,000千円
 - ・従業員数 : 157人
 - ・生産拠点 : 本社工場(松本市), 第二工場(松本市)
 - ・営業所 : 岡山営業所(津山市), 栃木営業所(栃木市), 熊本営業所(熊本市), 秋田出張所(秋田市), 宮城出張所(大崎市)
- 対象範囲（認証・登録範囲）
全組織における活動を対象としています

○環境活動推進体制図

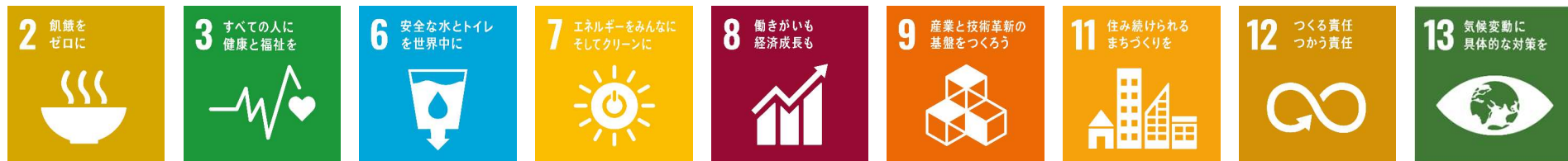


担当	所属	氏名	連絡先
環境管理責任者	取締役製造部長	山口 義雄	0263-48-1181
環境活動推進事務局担当	製造部 品管・生技G課長	小松 享彦	0263-48-1181

2. 環境経営方針

地球環境の保全・汚染の予防が世界共通の最重要課題であることを深く認識し、有機農業を応援・推進する活動を通じて、可能な限り地球環境の維持・向上に全員参加で努めてまいります。具体的には次のことを実施します。

1. 製品の開発・設計・製造・販売において、省資源・省エネルギーを推進し、廃棄物の削減に努めます。
2. 人類の安全・安心と地球環境のために、循環型有機農業を応援する作業機の提供を行うとともに、農業従事者の省力化を通して環境経営を実践します。
3. 環境に関わる法規制、その他の要求事項を遵守します。
4. 継続的に改善し、環境の保全・汚染の予防に努めます。
5. SDGsの達成に向け、事業を通じて世界共通の課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。



6. 本方針はエコアクション21により実施し、全従業員に周知徹底します。

2020年11月1日
株式会社デリカ
代表取締役社長 金子孝彦

3. 環境経営目標及び環境活動計画とその達成状況

○環境経営目標

当社事業年度の67期を基準年として次の環境経営目標を設定しました。

環境指標(単位)	基準年実績	目標値		
	67期 (2018/11 -2019/10)	69期 (2020/11 -2021/10)	70期 (2021/11 -2022/10)	71期 (2022/11 -2023/10)
CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	944,703	935,256(-1%)	925,809(-2%)	916,362(-3%)
電力(MWh)	1,253	1,240(-1%)	1,228(-2%)	1,215(-3%)
LPG使用量(m ³)	65,812	65,154(-1%)	64,496(-2%)	63,838(-3%)
軽油使用量(L)	40,598	40,192(-1%)	39,786(-2%)	39,380(-3%)
ガソリン使用量(L)	29,224	28,932(-1%)	28,640(-2%)	28,347(-3%)
灯油使用量(L)	3,330	3,330(維持)	3,330(維持)	3,330(維持)
産業廃棄物(kg)	62,720	62,720(維持)	61,466(-2%)	60,211(-4%)
一般廃棄物(kg)	22,800	22,344(-2%)	21,888(-4%)	21,432(-6%)
水使用量(m ³)	5,504	5,504(維持)	5,504(維持)	5,504(維持)
循環型有機農業 支援機器拡販 (販売計画達成率%)	93.6%	100%	100%	100%
PRTR化学物質使用 量定期監視(1回/年)	—	定期監視1回	定期監視1回	定期監視1回
法令順守率(%)	—	100%	100%	100%
EMSの構築・維持	—	ISO21取得	←認証維持	←認証維持

○環境活動計画と取組の結果

項目	施策	活動内容
消費電力削減	(1)トイレ照明節電促進	トイレ消灯ステッカ作成, 掲示
	(2)第二工場エアコン使用適正化	冷暖房取扱手順の明確化と運用
	(3)ホール盤不使用時スピンドル停止の促進	スピンドル停止ステッカ作成, 掲示
	(4)コンプレッサ運転効率化(エアもれ修理)	エア漏れ箇所修理(随時)
LPG使用量削減	(1)事務所冷暖房効率化(本社工場)	「事務所冷房・暖房の取扱について」を掲示し手順明確化済 法定点検(定期点検, 自主点検)の実施
	(2)工場遠赤暖房効率化	「工場暖房及び喚起について」を掲示し手順明確化済み
軽油/ガソリン使用量削減	(1)エコ運転促進	エコ運転ステッカ作成し社用車に掲示
産業廃棄物削減	(1)産業廃棄物排出量の監視, 集計	マニフェスト履歴データを事務局にて集計
一般廃棄物削減	(1)分別の徹底	分別表ステッカ作成, 掲示
	(2)一般廃棄物排出量の監視, 集計	一般ごみ袋数を全社記録し事務局にて集計
水使用量	(1)節水の徹底	節水呼びかけステッカ作成, 掲示
インプル販売計画達成率	(1)QMSによる推進結果確認	ISO課題推進および営業部品質管理委員会資料による
PRTR化学物質使用量	(1)新規化学物質の採用有無確認	安全衛生委員会による
法令順守率	(1)環境関連法規制順守評価	環境法令順守状況確認(2回/年)
	(2)切粉台車の漏洩防止	本社: 不要台車の撤去、廃却 第二工場: 漏洩防止台車の導入
EMSの構築・維持	(1)EMSの全社員周知	11/16全社朝礼にて環境教育実施
	(2)環境内部コミュニケーション	品質管理委員会にて随時報告
	(3)外部からの苦情、要望	外部からの苦情, 要望事項の有無と対策状況確認
	(4)内部監査・マネジメントレビュー	2021/2月内部監査, マネジメントレビュー実施

各項目について実施項目を決め、年間の活動計画を立て、計画どおりに推進しました。

○環境経営目標の達成状況

環境指標(単位)	基準年実績 (67期)	69期		
		目標値	実績	判定
CO2排出量(kg-CO2)	944,703	935,256(-1%)	1,327,425(+41%)	×
電力(MWh)	1,253	1,240(-1%)	1,559(+24%)	×
LPG使用量(m3)	65,812	65,154(-1%)	66316(+2%)	×
軽油使用量(L)	40,598	40,192(-1%)	43,475(+7%)	×
ガソリン使用量(L)	29,224	28,932(-1%)	27,758(-5%)	◎
灯油使用量(L)	3,330	3,330(維持)	3,477(+4%)	○
産業廃棄物(kg)	62,720	62,720(維持)	96,994(+55%)	×
一般廃棄物(kg)	22,800	22,344(-2%)	11,224(-51%)	◎
水使用量(m3)	5,504	5,504(維持)	4,929(-12%)	◎
循環型有機農業 支援機器拡販 (販売計画達成率%)	93.60%	100%	100.7%	◎
PRTR化学物質使用 量定期監視(1回/年)	—	定期監視1回	定期監視実施 1tを超えるものなしOK	○
法令順守率(%)	—	100%	100%	○
EMSの構築・維持	—	ISOアクション21取得	2021/6月取得	○

 ※電力のCO₂排出係数

- ・本社工場・第二工場 : 0.452kg-CO₂/kWh(中部電力(株)・調整後・2018年度)
- ・岡山営業所 : 0.585kg-CO₂/kWh(中国電力(株)・調整後・2019年度)
- ・熊本営業所 : 0.371kg-CO₂/kWh(九州電力(株)・調整後・2019年度)

○環境経営目標達成状況の評価

- (1)CO₂排出量は目標値を大幅にオーバーし未達となった。電力量増加が大きい。
原因として第二工場の新設、今井工場製品の本社集約という環境の大きな変化点が69期にあった。
⇒電力ほかエネルギー使用量の増加要因となった
- (2)廃棄物は産業廃棄物が基準年+55%と大幅に未達となったが、一般廃棄物は基準年-51%と大きく減少している。基準年時と69期で廃プラスチックの分類、定義を変更したため(工場内で発生する全てのプラスチックゴミは廃プラスチックと明確化)と推定。
- (3)水の使用量は基準年-12%で大きく削減できた。第二工場への生産移管に伴う設備の更新、メンテナンスにより水使用設備の使用効率が向上したものと推定。
- (4)循環型有機農業支援機器(自社インプル製品)拡販は、販売計画達成率100.7%となり目標達成。
コロナ禍の中であったが、助成制度などの情報を緻密に収集したことで受注獲得につながった。また社内においての感染防止策が確実に遵守・徹底されたことで生産能力を維持し続けることができ、確実に製品供給をすることができた。
- (5)化学物質の使用状況、また法令順守率については、エコアクション21の活動を通じて現状の見える化ができ、確実に遵守されていることが確認できた。
- (6)EMSの構築・維持についてはコンパクトな活動を初年度に展開したことで短期間でのEA21認証取得を得ることができた。
- (7)上記の結果より、69期実績を新たな基準年と設定し、70期からの3ヶ年の環境経営目標を策定し70期の環境経営活動に取り組むことを事務局からの提案とした。

4. 環境関連法規等の遵守状況、違反・訴訟等の有無

当社の事業活動に関連する主な環境関連法規等は下記のとおりです。

2022年2月2日、遵守状況の確認を行い、下記の通り違反はありません。

過去3年間に関係当局からの違反等の指摘および利害関係者からの訴訟はありません。

関連法	対象工程・施設	要求事項	要求事項	担当部門	評価結果	
水濁法/ 下水道法	酸・アルカリ 洗浄槽	特定施設届出	特定施設の届出内容に変更がないか	塗装排水責任者	○	
		定期検査	市の立ち入り検査(水質検査)結果に問題なかったか	塗装排水責任者	○	
		事故報告	市への報告が必要な事故(漏出など)がなかったか	塗装排水責任者	○	
		事故防止	設備の定期点検が実施されているか	1PC	○	
化管法	特定化学物質 を含む購入品	第1種化学物質 1t/年使用時届出	年間の化学物質使用量(購入量)が1tを超えてないか 新規に導入した化学物質は使用量を把握しているか	事務局 事務局	○ ○	
		紛失・盗難防止	保管庫はカギをかけているか	1PC	○	
毒劇法	塩化水素, 硫酸, パルボンド	飛散, 流出防止, 地下浸透防止	密閉容器で確実に保管されているか。容器に劣化、 破損はないか	1PC	○	
		「医薬用外」「毒物」 「劇物」表示	保管場所に「医薬用外」「毒物」「劇物」の表示がされているか	1PC	○	
		少量危険物貯蔵所届出	危険物貯蔵所の届出内容に変更がないか	防火管理者	○	
消防法	灯油・軽油	転倒, 漏洩, 飛散防止	転倒, 漏洩, 飛散防止がされているか	防火管理者	○	
		少量危険物 貯蔵所	規制量40Lを超えて保管していないか(本社) 規制量40Lを超えて保管していないか(営業倉庫)	1PC 営業	○ ○	
	三石 (切削油等)	少量危険物 貯蔵所	規制量500Lを超えて保管していないか(本社) 規制量500Lを超えて保管していないか(第二)	1PC 2PC	○ ○	
		四石 (切削油等)	少量危険物 貯蔵所	規制量1200Lを超えて保管していないか(本社) 規制量1200Lを超えて保管していないか(第二)	1PC 2PC	○ ○
	廃棄物 処理法		産業廃棄物	マニフェストの回収	マニフェストが期限内に回収されているか	生技
		マニフェスト管理表届出		マニフェスト交付状況を県に提出しているか	生技	○
		流出, 漏洩防止		廃棄物保管場所で油の漏洩, 流出がないか(本社) 廃棄物保管場所で油の漏洩, 流出がないか(第二)	1PC 2PC	○ ○
		最終処分確認		廃棄物収集・運搬・処分業者の実地見学(努力義務)	公害防止責任者	○
収集・運搬・処分業者		自治体の認定業者に依頼しているか		公害防止責任者	○	
家電 リサイクル法	テレビ・エアコン・ 冷蔵庫	リサイクル料金 (廃棄時)	テレビ, エアコン(家庭用), 冷蔵庫の廃棄がなかつ たか。あればリサイクル料金は支払ったか	各部門	○	
フロン排出 抑制法	事務所エアコン 第二工場エアコン	法定点検	簡易点検(自主点検)4回/年以上	総務	○	
			定期点検(有資格者点検)1回/年以上	総務	○	
	FOレーザチラー	法定点検	簡易点検(法定点検)4回/年以上	1PC	○	
			有資格者点検(法定点検)1回/年以上	1PC・生技	○	
			簡易点検(自主点検)	簡易点検(法定点検)4回/年以上	1PC	○
Regレーザチラー エアコンプレッサー スポットクーラー	法定点検	簡易点検(法定点検)4回/年以上(本社)	1PC	○		
		簡易点検(法定点検)4回/年以上(第二)	2PC	○		
		型式届け出機種	届出内容に変更がないか 法令対象範囲, 基準等に変更がないか	開発技術 開発技術	○ ○	
オフロード法	DAM-253/354	型式届け 検査記録	届出内容に変更がないか 法令要求の全数検査記録保管(5年以上)	開発技術 品管	○ ○	

5. 代表者による全体の評価と見直し、指示（マネジメントレビュー）

<全体の評価>

当期は、EA21の認証を取得するべく活動してきました。結果としてスムーズな認証登録に至ったことは大きな成果だと感じています。これからはEA21の仕組みに則り、効果的、効率的、継続的に環境に取り組んでまいります。

全般的には、環境経営方針及びEMS課題推進計画を踏まえた具体的な取り組みが着実に遂行されており、環境経営と事業活動が有機的に連携された施策として定着化しており、かつ運用も適切であることから有効性ありと評価します。

CO2削減については、省エネ運転の励行や節水の呼びかけによりガソリン使用量や水使用量が減少。また、廃棄物を分類することで一般廃棄物を減少させるなど良い結果に結び付いています。

しかし、前期に工場を建設して2工場体制となったことにより、CO2排出量などが従来と比べて大きく変化してしまいました。従いまして、当期を基準年として新たな目標値を設定して活動を展開して下さい。

そして、有機農業を支援することで農地土壌に化学肥料のみを施用した場合に比べ、年間で貯留できる炭素量が増加することから、堆肥散布機の拡販でCO2削減を可能とする取り組みは有効性があつたと評価します。来期もスローガンである「有機農業と、未来へ。」を念頭に有機農業取組面積を増加させるべく活動を展開して下さい。

来期は、企業に対する脱炭素社会への取組みやSDG s の推進への期待が益々高まる中、環境活動を部門単位に展開するとともに、全社員の意識向上に結び付ける周知活動を展開して下さい。

<見直し・指示>

- ◇環境方針 : 変更の必要なし
- ◇環境目標及び活動計画 : 69期を基準年として新たな目標値を設定して活動を展開すること。環境活動を部門単位に展開し、全社員の意識向上に結び付ける周知活動をしてください。
- ◇実施体制 : 変更の必要なし

2022年2月25日
代表取締役社長
金子孝彦

6. 次年度の取り組み

6 9 期を基準年度に設定し、新たな 3 ヶ年の環境経営目標を設定しました。目標達成に向け、部門毎に環境活動計画を策定し推進します。

環境指標(単位)	基準年実績 (69期)	目標値 ※()内比率は基準年比較		
		70期	71期	72期
CO2排出量(t-CO2)	1,327.4	1,314.2(-1%)	1,300.9(-2%)	1,287.6(-3%)
電力(MWh)	1,559	1,543(-1%)	1,528(-2%)	1,512(-3%)
LPG使用量(m3)	66,316	65,653(-1%)	64,990(-2%)	64,327(-3%)
軽油使用量(L)	43,475	43,040(-1%)	42,606(-2%)	42,170(-3%)
ガソリン使用量(L)	27,758	27,480(-1%)	27,203(-2%)	26,925(-3%)
灯油使用量(L)	3,477	3,442(-1%)	3,407(-2%)	3,373(-3%)
産業廃棄物(kg)	96,994	96,024(-1%)	95,054(-2%)	94,084(-3%)
一般廃棄物(kg)	11,224	11,112(-1%)	11,000(-2%)	10,887(-3%)
水使用量(m3)	4,929	4,880(-1%)	4,830(-2%)	4,781(-3%)
循環型有機農業 支援機器拡販 (販売計画達成率%)	100%	100%	100%	100%
PRTR化学物質使用 量定期監視(1回/年)	定期監視1回	定期監視1回	定期監視1回	定期監視1回
法令順守率(%)	100%	100%	100%	100%
EMSの構築・維持	EA21認証	認証維持	認証維持	認証維持

7. 環境活動への取り組み事例の紹介

- (1) 全社員に向けた環境教育を、2020年11月の環境活動開始に合わせ全社朝礼で行いました。当社の環境への負荷の自己チェックの結果を分析、見える化し、エコアクション21の概要とともに資料化し教育を行いました。

<教育資料（抜粋）>



6. 環境活動への取り組み事例の紹介

(2) 環境への取り組みを全社員に周知、啓発するためにステッカーを作成し、社内のごみ箱や照明スイッチ、社用車等に掲示しました



(3) 環境に関する特定業務の教育資料を作成し、対象従事者に回覧して教育を行いました。教育資料は特に「シンプルなこと」「判りやすいこと」に重点を置き、対象従事者の教育受講の負担を最大限に減らしました。

(4) 「改善提案」制度を永年にわたり実施しています。(社内制度制定：昭和56年)
全社員から、日頃の業務の中で気付いた改善・問題点の提案を募集し、生産効率の向上・品質向上・不良の削減に取り組み、省エネや廃棄物削減につなげています。2020年度 改善提案実績184件

